バードの探訪記をご紹介しよう。

ロンバードは、ある友人を通じてニューヨーク郊外のパーティに参加した。さる三月中ばのことである。

会場は高級アパートの一室。参加したのは五組のカップルだった。ロンバードは一人だったが、たまたま参加者の中にパートナーにあぶれた女性がいたので、

■映画「マクリントック」より

ちょうどよかった。

ロンバード以外のカップルは全部ほんものの夫婦である。ワイフスワッピングのパーティとかわっている点は、女性が全部ぴったりしたスラックスすがたで、みごとなヒップを誇示していることだ。

バーボンを飲みながら、二、三十分雑談したあとで、今夜のホステス役パトリシアが、メンバー全員にピンポンのラケットを一丁ずつくばった「そろそろはじめましょうか」男性と女性は、それぞれ一列横隊になんだ。まず男性側が四つんばいになり、そのヒップを女性側がラケットでたたいてまわる。ピシッピシッ、パンパンと小気味よい音が、部屋中に鳴りひびいた。

つづいて女性側が四つんばいになり、偉大なヒップを突きだした。

「いい眺めだ」

「ロッキー山脈八峰々ってわけだな」

■映画「踊れ！サーフイン」より

男性側は、冗談口をたたきながら、ラケットを打ちおろした。女と男では力がちがう。

「ヒイッ……」

女性側のひとりが、からだをよじりながら悲鳴を上げた。そこで打ち手がやめると、ぎゃくにしかられた。

「なにしてんのよ。つづけて……」

痛みが激しければ、それだけ快楽も深いのである。女性のヒップは皮下脂肪に富んでいるので、男の力もはたで心配するほど強くはひびかない。

もし、男同志で力まかせにスパンキングを行なったら、皮下脂肪が薄い男性のヒップは、ガタガタになるだろう。非力な女性がスパンキングを行なうから、ちょうどよいのだ。

■映画「アルフィ」より

さて、ウォーミングアップが終ると、いよいよゲームにとりかかる。

「最初はダービーですよ。はりきってね」

パトリシアは、夫婦が顔を合わせないように、カップルを五つこしらえた。カップルごとに、男性が馬になり、女性がその上にまたがって広い部屋を一周するゲームだ。

パトリシアをのせた馬は、ロンバードであった。

「早く、早く…」

女性騎手は馬の尻にラケットの鞭を当てていそがせる。ロンバードは、コースの途中でバテ気味になった。上に乗せたパトリシアがほっそりしたからだのわりに重いのだ。

「しっかりしてよ。ビリになったら承知しないから」

興奮したパトリシアは、気ちがいのようになってラケットをふるった。その見当がくるって、ラケットのかたい角が馬の急所にぶつかったからたまらない。ロンバードは「ぎゃっ！」と叫んでその場にうずくまった。

おかげでパトリシアの組はビリである。

「ほんとに、この馬密ぐずだから」

パトリシアは部屋の中央に四つんばいになった。それを四人の男性がとりかこみ、ヒップにラケットをふりおろした。一方、ロンバードは、四人の女性につきたおされ、やはりラケットの乱打を浴び、たちまちヒップが火のように熱くなった。

これが競馬に負けた罰なのである。